

脳卒中診療の最前線

⑩ 地域で診る脳卒中

▽はじめに

今まで9回、「脳卒中の最前線」と題して治療やりハビリについてご紹介いたしました。今回は最終回で、地域全体で脳卒中を克服していくことを取り上げます。

2 急性期病院の役割

脳卒中治療は時間との戦いです。特に脳梗塞に対するt-PA投与は発症から4・5時間以内です。治療の流れを7Dで表現しています(図2)。7Dとは(1)発見(2)出動(3)搬送(4)来院(5)情報(6)方針決定(7)治療開始を表す英単語がすべてDで始まることに由来します。これらすべてを、4・5時間以内に完結しなければなりません。逆算すると、発見(発症)から来院までの猶予はわずか3・5時間です。受け入れた病院でも患者さんの来院から60分以内に治療を始めることを目標としています。これは容易なことではなく、救急隊および各病院内でのチームワークが重要です。

1 脳卒中発症から受診まで

図1 倉敷・プレホスピタル・脳卒中スケール (Kurashiki Prehospital Stroke Scale:KPSS)

意識水準	覚醒状況	正常0点		
	完全覚醒	1点		
	刺激すると覚醒する	2点		
意識障害	完全に無反応	2点		
	患者に名前を聞く	正常0点		
運動麻痺	上肢運動	患者に目を開いて、両手掌を下にして両腕を伸ばすように指示	運動右手	運動左手
		左右の両腕は平行に伸ばしている。動かさず保持できる	正常0点	正常0点
		手を拳上出来るが、保持できず下垂する	1点	1点
		手を拳上することが出来ない	2点	2点
	下肢運動	患者に目を開いて、両下肢をベッドから拳上するように指示	運動右手	運動左手
		左右の両下肢は平行に伸ばしている。動かさず保持できる	正常0点	正常0点
		下肢を拳上出来るが、保持できず下垂する	1点	1点
		下肢を拳上することが出来ない	2点	2点
	言語	患者に「今日はいい天気ですね」を繰り返して言うように指示	正常0点	
		はっきりと正確に繰り返して言える	正常0点	
		言葉は不明瞭(呂律がまわっていない)、もしくは、異常である	1点	
		無言、黙っている。言葉による理解が全く出来ない	2点	
合計	0点が最も軽く、13点が最も重症となる	0~13点		

川崎医大病院脳神経外科部長・
日本脳卒中協会岡山県支部長
宇野 昌明

同病院脳卒中科部長・同副支部長
八木田 佳樹



うの・まさあき 操山高、徳島大医学部卒。徳島大病院、徳島赤十字病院などを経て2009年から現職。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医。公益社団法人日本脳卒中協会岡山県支部長。

やぎた・よしき 香川県立高松高、大阪大医学部卒。大阪大病院神経内科・脳卒中科などを経て2014年から現職。日本脳卒中学会専門医、日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医。日本脳卒中協会岡山県副支部長。



3 急性期病院から回復期リハビリ病院への連携

さて、急性期治療が一段落し、後遺症が残った場合は回復期リハビリテーションを行うために専門の病院に移ります(図3)。この際、急性期病院で行った治療および患者さんの情報を回復期リハビリ病院に詳細にお伝えします。回復期リハビリ病院では集中的にリハビリを行い、患者さんが少しでも社会復帰、自宅復帰ができるようにします。このような一連の連携を行う時、「医療ソーシャルワーカー」という専門の方が患者さんの相談に乗ってくれ、問題解決に向けて援助してくれます。

4 ホームドクターの重要性

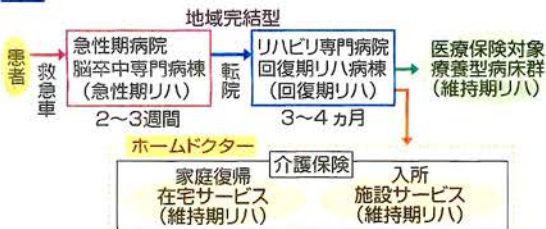
リハビリ病院から自宅に退院した場合、あるいは介護施設に入所した場合は、全身の状態を管理してくれるホームドクター(かかりつけ医)を決め、血圧、血糖などの管理を相談します。特に血圧は脳卒中再発の最大の因子ですので、ホームドクターとよく相談して薬の服薬量、食事の内容を調節してください。自分で判断して服薬を中止した

5 日本脳卒中協会の活動

り、偏った食事をするこはやめましょう。

日本脳卒中協会は、脳卒中に関する正しい知識の普及および社会啓発による予防の推進と脳卒中患者さんの自立と社会参加の促進を図り、それにより国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的として、2005年3月に設立されました。その一つの事業としてNHK岡山放送局、川崎医科大学とが共同で09年4月から10年3月末まで「脳卒中防止キャンペーン」を実施し

図3 地域完結型脳卒中治療



日本脳卒中協会の啓発ポスター

▽終わりに

昨年からA C Japanを通じて脳卒中の症状啓発を行っています(図4)。これまでに脳卒中の種類、症状、治療法、リハビリテーション、地域で行う連携について、お知らせしてきました。脳卒中は寝たきりの原因となる最も多い病気です。日ごろから予防に心がけ、発症したらすぐに専門医に受診するということを守っていただければと思います。